

2025年10月10日(金)8:40からCRTスタジオで収録

読書の秋です。内村鑑三著『後世への最大遺物—デンマルク国の話』『代表的日本人』(岩波文庫)
を読んでみましょう！

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1)人は後の世に何が遺せるのだろうか。
(2)内村鑑三は、「後世への最大遺物・デンマルク国の話」という岩波文庫の中で、後世(自分が死んだ後の世の中)への最大遺物(最も価値ある尊い、遺せるもの)」として、5つ挙げています。
(3)読書の秋です。是非、じっくり、少しずつお読みください。
2. 第一は、「お金」です。コツコツお金をため、死んだ後にお金を遺す。お金を遺し、遺族の生活や、その将来のために役に立てる。さらには、奨学金として、経済的に恵まれない児童・生徒・学生が、学校などで学ぶときに役立てる。
3. 第二は、「仕事」「事業」です。自分が、一所懸命、行っていた仕事・事業を、後の世に遺す。そのために、どのような仕事でも、規模に関係なく、今まで自分が行ってきた仕事の価値(大切さ)や意味、仕事の仕方を、後輩によく教え、理解し、身に付けさせなければなりません。
4. 第三は、自分の伝えたい考え、思想を、文章や「作品」にまとめて、後の世に遺すことです。文藝作品(童話・小説・エッセイ・詩・短歌・俳句など)や、音楽の作品、美術の作品など、ありとあらゆるジャンルの作品にまとめて、一つでもいいから、後の世に遺す。
5. (1)第四は、「教育」です。「家庭教育」「学校教育」「社会教育」など、ありとあらゆる場で、年齢や性別など一切問わず、「自分が教えるべき立場に立った人」に、大切なことを教えること。これが教育。
(2)後の世に遺せるのは、人に、大切なことを教えることです。人に教えるためには、自分なりに、教えるべき内容について学ぶことが大事です。
(3)そして、「学んだことを、自分のことばでいえる(表現・説明できる)」までにしてから、教えることが大事です。
 - ①わからない言葉に出会ったらきもちが悪いと考え、辞書を用いて調べること。
 - ②新聞を丹念に読み、世の中のことを知ること、批判的思考能力を身に着けること。
 - ③先生として、読書を怠らない。思慮深さ、省察力を身に着ける。
 - ④各教科の学校の教科書で紹介されている本は、20年・30年かけてでも、全部読む。

⑤そのために、先生として、図書館を活用、自分の居場所の一つにする。

6. 第五は、「生き方」です。「ああ、あのような生き方をした人がいたなあ」と、思い出してくれるような、「生き方」(勇ましい高尚な生涯)を、後の世に遺す。

7. 内村鑑三は「デンマルク国の話」の中で、戦争で荒れた湿地帯が続くデンマルク(今のデンマーク)の大地を鋤で耕し、樅の木を一本、一本、木を植え、豊かな大地をつくった、35歳の帰還兵、ダルガスのことを紹介しています。

8. また、内村鑑三は、「代表的日本人」という岩波文庫の本の中で、「後世(後の世)に、大切なものを遺してくれた、5人の日本人を紹介しています。

(1)西郷隆盛(新日本の創設者)

(2)上杉鷹山(封建領主)

(3)二宮尊徳(農民聖者)

(4)中江藤樹(村の先生)

(5)日蓮上人(仏僧)

○二宮尊徳は、栃木・茨城・福島でご活躍。

<二宮尊徳のことば>

「積小為大」、小さなことをコツコツ積み上げて、大を為す、志を、成し遂げよう!

9. この2冊の本は、日本人が、日本の文化、思想を西欧に英語で紹介した代表的な著作を、日本語に翻訳したものです。

素晴らしい作品です。

10. NHK 朝のテレビ番組、「ばけばけ」の主人公の2人目のパートナー、詩人・文学者で大学教授のラフカディオ・ハーン、小泉八雲も、「怪談」だけでなく、日本の文化、思想を西欧に英語で紹介、高く評価されています。「日本の心」(講談社学術文庫)「東の国から」(岩波文庫)

○胸にしみる、素晴らしいエッセーです。日本のよさが感じられ、ジーンとします。

少しずつお読みください。

2025年10月10日(金)8時00分